

令和7年度 小学校視聴覚部会 研究報告書

- (1) 市 名 長浜市
- (2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

部会長 長浜市立長浜南小学校 教頭 水谷 直美
理 事 長浜市立速水小学校 教諭 中島 大理
研究員 長浜市立余呉小中学校 教諭 新保 捺

(4) 年間の研究(事業)報告

4月16日(木) (市) 市内視聴覚教育主任会
5月 9日(金) (市) 第1回 ICT 活用推進連絡協議会
7月22日(月) (県)県教育研究会視聴覚部会 運営委員・研究推進委員合同研修会
8月 1日(金) (市) 第1回 ICT 活用推進連絡協議会
通年 各校での ICT を使った授業の実践

(5) 取り組み(実践事例)

余呉小中学校の研究主題に「言語活動の充実」がある。そのため、様々な場面において「自分の思いや考えを伝え合う」ことを目指し大切にしている。ノートに自分の考えを書くことや、タブレットでみんなの考えを共有するなどにより、アナログとデジタルの良いところを用いながら長浜スタイルの授業を目指している。ロイロノートの共有ノートや、提出箱の共有を活用して、友だちの意見を自由に見ることで、友だちの意見を参考にし、自分の意見を広げるなど、日々実践を行っている。

6年生の国語科「デジタル機器と私たち」の学習では、児童と一緒に学習計画を立てた。それぞれがタブレットを使って、進めていけるようにした。学習のゴールは小学生を対象に、グループでデジタル機器の使い方についての提案文をつくることにした。本単元では、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」を目標とし、提案する文章を書く活動が設定されている。そこで、考えたことや伝えたいことをもとに提案する文章を書くという言語活動を位置づけ、説得力のある構成を考え、提案する文章をタブレットで書く学習活動を進めた。今回は共有ノートを用いて、グループで学習を進めた。

単元をスタートするにあたり、ロイロノートのシンキングツールのウェビングを使ってデジタル機器にはどのようなものがあるのかを出し合った。タブレット、スマートフォ

ン、パソコン、テレビ、カメラ、ゲーム等様々なデジタル機器が出てきた。GIGA スクール構想で一人一台端末が整備され、家庭だけでなく、学校生活においてもインターネットにアクセスしたり、写真や動画を撮影したりする機会が増え、デジタル機器を扱うことが身近になってきている。また、クラスの中には SNS を活用している児童もいる。そのような理由から、デジタル機器を正しく、安全に使うために気を付けた方がよいことについて、意見を出し合った。そこでは、インターネット上での誹謗中傷、SNS を使ったいじめ、詐欺、デジタル機器の長時間使用による健康被害、依存等多くの意見が出てきた。そこで、グループでテーマを決め、情報を集めて、提案内容を検討した。情報を集める際には、本やインターネットを活用した。提案内容を支える事実を検索し、提案する文章を考えた。

(6) 成果と今後の課題

成果は、タブレットを活用することで、瞬時に提案に関する事実を調べられた。また説得力のあるデータを見つけられた。そして、文章を構成したり、書いたりするときに簡単にカードを動かしたり、書き直せたりすることで、話し合いや文章が深まった。構成を考える際、初め、中、終わりでカードの色を変えておくこと(図1)で、提案文を書くときに、大まかな内容が分かりやすくなった。さらに、書くことが苦手な児童も、友だちと話し合って書いてみようとしていたり、簡単に書き直しができたりするので、文章を書くことに対しての苦手意識が軽減したように感じる。ロイロノートの共有ノートを使ったので、同じ班の友だちが困っているところにすぐに気付けたため、友だち同士の教え合いが活発に行われた。他のグループの文章を参考にしているグループも見られた。

課題としては、情報を集める際に情報がありすぎて、どの資料を取り扱うか選択するのに時間がかかったグループがあった。情報を選択する力を養っていく必要がある。また、最後に提案文を発表する際に、原稿通りになってしまったので、相手を意識した発表ができるよう指導していきたい。情報モラルの育成、文章の書き方など教科横断的にその都度適切な指導をしていくことが必要になると考える。

詐欺に遭った時は落ち着いて 6年

1. 提案のきっかけ

自分たちの体験1
お母さんのスマートフォンから、知らない番号が来て、電話は出なかつたけど、調べたら詐欺だった。

自分たちの体験2
YouTubeやニュースで詐欺の被害に遭っている人がいた。

調べた内容
一番、多い詐欺は、オレオレ詐欺。詐欺は、電話などを使って、お金を騙し

2. 提案

提案1
詐欺電話が来た場合に備えてどこに相談したらいいかを確認する。相談する際として、消費者ホットライン188、警察相談専用窓口09110に電話をかける。

提案2
知らない相手からの通知は無視し、不審なサイトは基本開かないようにする。

3. まとめ

提案のまとめ
知らない番号がきたら、無視するか、電話を切るとする。

提案のまとめ
詐欺電話や特殊詐欺に遭った場合は慌てず冷静に行動することが大切。そして、何かあったら警察に電話をかけて、相談する。

まとめ
インターネットは様々な機能がありとても便利で、世の中のほとんどの人がインターネットを使っている。そんなインターネットにも、詐欺などの危険なこともたくさんある。そのため、日頃からインターネットの危険性を理解し、対策をすることが大切である。楽しく便利な物だからこそ、普段から気を使うことが大切だと思う。誰でも使える物だからこそ、正しい使い方をし、万が一の時のことや、日頃からの対策を心がけよう。

詐欺に遭った時は落ち着いて 6年

1. 提案のきっかけ
(1) 私たちの体験、調べて分かったこと
スマートフォンを触っている時に、知らない番号から電話がかかってきたことはないだろうか。ここから、詐欺電話だと思われる。
「詐欺電話」とは、電話で偽装や悪戯に化けて、被害者を騙して盗みや犯罪のことで、グラフ1をみると、不当請求詐欺サイトが、92.8%で、詐欺で多くの人が騙されている。
また、ニュースやYouTubeなどで詐欺の被害に遭っている人たちもいた。
(2) 解決したい課題
詐欺に遭ってしまうことで、お金の個人情報も悪用されてしまうが、ネットなどは顔がわからないので、本当に信用できる人なのか分からなくなってしまう。
他にも、もし詐欺に遭ってしまった時の正しい対処法を知る機会があまり身近な存在ではないので、この課題を解決する方法を提案したい。

2. 提案
「詐欺」に被害を受けた時の対応
僕たちはいつ、どこで「詐欺」に出会うかわからない。電話がかかって来たり不審なサイトや通知が来たりすることである。このようなことが起こっても対処できるようにどうしたらよいか具体的に提案する。
①知らない相手からの通知は無視し、不審なサイトは基本的に開かないようにする。もしも通知やサイトを開いてしまうと、取り返しのつかないことになってしまうかもしれない。
②「詐欺電話」が来た場合に備えてどこに相談したらいいかを確認する。相談する例として、消費者ホットライン、警察相談専用窓口に電話をかける。電話番号は右の写真にかけるとよい。
このように、詐欺に遭わないよう、普段からの対策を心がけていたり、もしもの時の具体的な対処法を学んでいることで、自分の身や個人情報も安全に守ることができるだろう。対策方法や対処法などを周りの人たちに広めていくことで、詐欺の被害に遭う人が年々少なくなっていくことだろう。

グラフ①

詐欺の種類	割合
不当請求詐欺サイト	92.8%
その他	7.2%

電話番号
上 消費者ホットライン
下 警察相談専用窓口

図1 提案のきっかけ

提案文 完成